

滋賀県大津市に位置する雄琴温泉は1200年の歴史を持ち、戦後交通アクセスの良さから関西の奥産敷として発展してきた。一方で、1971年に大規模な風俗街が作られたことにより、雄琴のイメージは著しく悪化。宿泊客が激減し、温泉地としての魅力が失われていった。この状況を打開するために1990年代後半から、おごと温泉旅館協同組合がこれまでのイメージを払拭するための取組を行い、近年では「京都に近い温泉地」、「港のある温泉地」と宣伝したことで、かつてのイメージも払拭されつつある。しかし、現在は宿泊目的で訪れる客がほとんどであり、大型温泉ホテル内で娯楽が完結出来ている。また組合が宣伝している「港のある温泉地」も現状としてうまく利用されておらず、観光客が地域で観光する対策が施されていない。今後、観光地としてのまちを作っていくのであれば、さらなる雄琴温泉の魅力を上げる必要がある。本提案では、今ある雄琴港を「港を活用した温泉地」として大津市の観光地となるように空間デザインする。現在、宿泊目的で訪れる客が港へ歩いて楽しむ空間を作り出す。そして、雄琴港から大津市にある港へ湖上交通を可能にすることで、雄琴港を大津市の観光拠点となるように提案する。また、災害復旧が大規模地震に見舞われた際、災害を受けた地域からの帰宅困難者を湖上交通を活用して雄琴港へ避難誘導させることを提案する。



湖都滋賀 大津市から始める観光まちづくり

存在感のない港



「港のある温泉地」をPRしているが雄琴港の場所が分かりづらい。また、正面に赤レンガ造りのカフェがあることで宿泊客が雄琴港を訪れた際、はじめに琵琶湖を見えず、景観を阻害している。さらに、現在雄琴港は週末のみの予約制の船の出航となっており、船の利用が非常に少ない状況となっている。

魅力が無い緑地公園

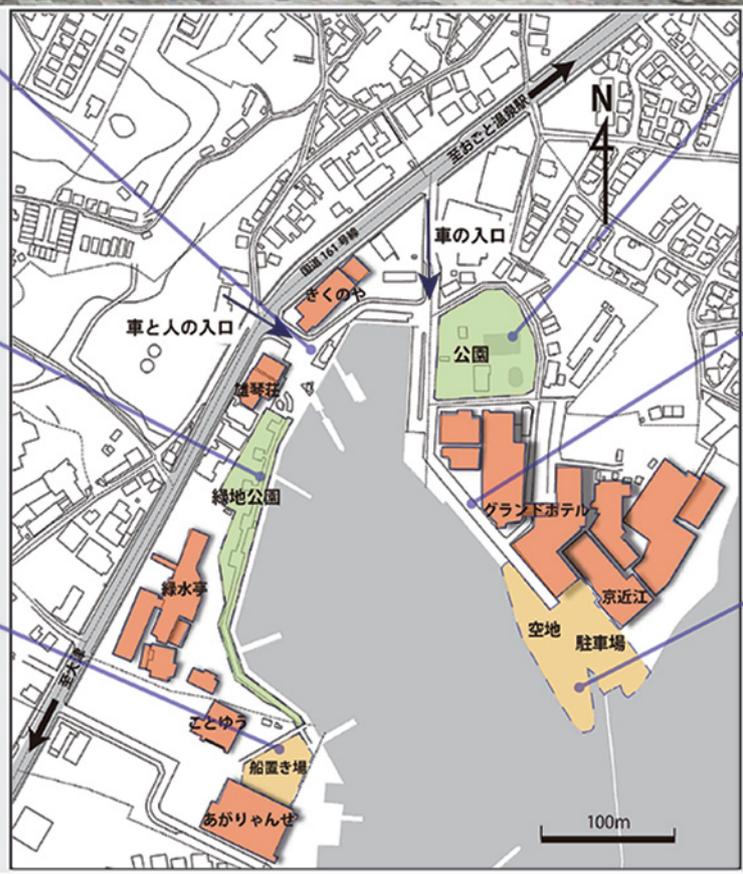


湖畔沿いに緑地が広がっている部分があるが、訪れた人々が復つて湖の眺望を楽しんだり落ち着くような場所が少なく、歩行者もあまりいない。緑地公園内でくつろげる空間や、歩行者が気持ちよく歩くことのできる空間があまりない。

雑然とした船置き場



現在、船置き場となっている広場の一部が敷設並べられているが、十分な整備がなされておらず、使用されていないスペースが多くみられる。また船置き場より芝生がはがれた地面が作る雑多な雰囲気や閑散とした現状から琵琶湖を一望できるこの広場へ観光客が足を運びにくい状況である。



活かしきれっていない空間と風景



湖の近くにある公園だが、周りに公園や学校があるため利用者が少なく、広い空間と眺望を活かし切れていない。また、公園の裏にプールがあるが、夏場に利用されるだけであり、夏以外の季節に利用される事はなほかりカプール使用時間以外では誰も使っていないプールが景観を損なう要因となっている。

夜には使えない散策路



琵琶湖Grandホテル前の歩道は、歩道と車道に分かれており、歩道には草木が植えられ昼間は歩きやすいように整備されている。しかし、夜間は街灯などの明かりはなく、暗いため宿泊客が歩きにくい状況である。

美しい水辺を眺める場所の不足

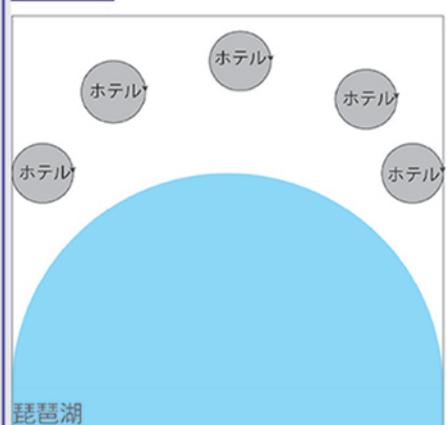


琵琶湖Grandホテルの前の地蔵から見える湖の眺望は湖畔沿いの中でも最も美しい風景であるが、現在は一部が琵琶湖Grandホテルの駐車場として利用されており、それ以外は整備の行き届いていない状況である。また、琵琶湖Grandホテルの駐車場の裏側であることからホテルの宿泊客以外の観光客にとっては足を運びにくい状況である。

コンセプト

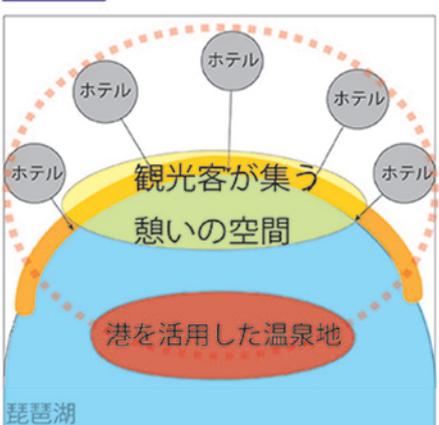
港を活用した温泉地計画

現状



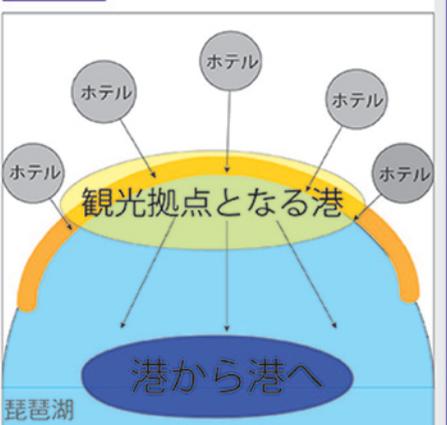
- ・宿泊客が大型温泉ホテル内で娯楽を完結できるためホテルの外へ出歩かない
- ・「港がある温泉地」としてPRしているにも関わらず昼夜通して湖畔沿いを歩いている人がほとんどいない

提案



- ・雄琴港の湖畔沿いを宿泊客が出歩きたくなるような魅力ある港に整備することで、雄琴温泉ならではの「港を活用した温泉地」を提案する

展望



- ・大津市にある港と船をつなぐことにより雄琴港を大津市の観光拠点となるようにする
- ・各港をつなぐことにより、帰宅困難者を湖上交通により、雄琴港に受け入れる



